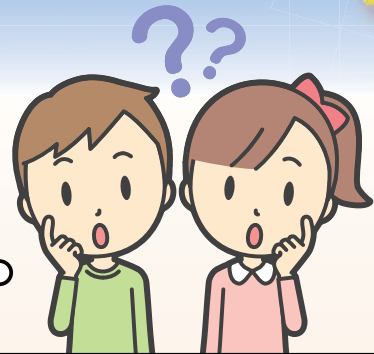


7月12日は 平和の日です

うつのみや市

みんなが平和で豊かに暮らすまちとして発展を続けている宇都宮市だけど、昔は戦争で大きな被害を受けたって、本当？



本当だよ。1945年の7月12日に大きな空襲があったんだよ。

1945(昭和20)年7月12日午後11時10分、115機のB-29爆撃機が宇都宮を襲い、多くの命が失われました。この出来事を「宇都宮空襲」と呼んでいます。

宇都宮市では

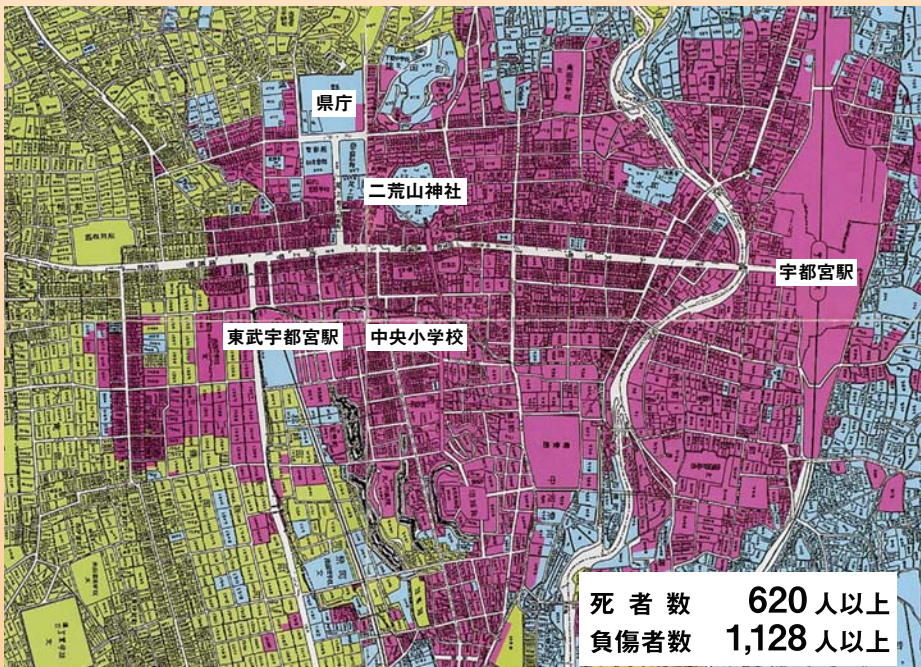
宇都宮空襲があった7月12日を
宇都宮市 **平和の日**

7月12日から終戦の日の8月15日までを
宇都宮市 **平和月間**

と定め、戦争の悲惨さや平和の大切さをみんなに伝えています。

宇都宮空襲とは

宇都宮空襲による被害状況図



左の地図は、当時の宇都宮市です。赤く塗られている部分が空襲により建物が消失した地域です。現在のJR宇都宮駅から東武宇都宮駅の間集中的に爆弾が落とされました。

この空襲は、軍需工場で働く労働者の戦意を喪失させるために、市街地をねらったといわれており、当時の宇都宮の市街地の半分以上が焦土と化し、大きな被害を受けました。

(凡例)

- 空襲により建物が消失した地域
- 爆弾は落下したが建物の消失がなかった地域
- 爆弾の落下も建物の消失もなかった地域

空襲の被害を何度も受けた宇都宮

宇都宮市は当時、「軍都」と呼ばれるほど、飛行場や、様々な軍需工場の多いまちでした。そのため、早い時期から空襲の標的になっており、宇都宮空襲のあった7月12日以外にも、機銃掃射(※1)などによる被害がありました。

1945(昭和20)年	場所	被害の状況
2月16・17日	清原	宇都宮陸軍飛行場が機銃掃射される
7月10日	清原・江曾島	飛行場(※2)が機銃掃射される
7月12日	宇都宮市街地	宇都宮空襲
7月28日	宇都宮市街地	宇都宮駅周辺が機銃掃射される
7月30日	清原・江曾島など	市内各地域で機銃掃射、飛行場が攻撃される
8月13日	宇都宮市街地 清原・江曾島	市内各地域で機銃掃射、飛行場が攻撃される



7月12日以外にも攻撃は行われ、毎日のように警報が発令されていました。当時の人々は不安な毎日をご過ごしていたんですね。



焼け野原になった宇都宮



▲現在のオリオン通り付近の様子(故 福田輝氏蔵)
写真の手前が現在のオリオン通り、奥に見える建物は、当時の栃木県庁(現在の栃木県庁昭和館)。



▲現在の東武駅周辺の様子(故 福田輝氏蔵)
写真中央の建物が、東武宇都宮駅のホーム。ホームの中には電車が見えます。

焼夷弾と機銃掃射に襲われた日

体験者のほなし



おおかわ じゅん
大川 淳 さん
13歳の時に
宇都宮空襲を体験

私は当時、JR宇都宮駅から1kmくらい北に住んでいました。空襲のあった日、焼夷弾(※3)がうちの玄関の前に落ちて燃え、全員で火を消しました。でも、なかなか消えないんです。焼夷弾なんて初めて見るものですから、必死になって消火にあたり、なんとか消すことができました。

また、別の日は、私は白いシャツを着て、うちの畑で野菜をとっていました。そのとき、黒っぽい星のマークが付いた探査機(※4)が見えて慌てて逃げました。探査機は、一度ほかのところに向かったのですが、また、ぶわーっと戻って来て、私を目掛けて機銃掃射をバラバラバラと撃ってきました。私は大木の根元に隠れて、なんとか生き延びることができました。それが恐ろしくて、本当に怖かったです。

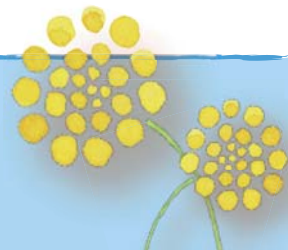
戦争は悲惨です。二度と起こしてはいけないと思います。そのためには、平和の尊さを永遠に語り継いでいく。これが大切だと思います。

(※1) 機銃掃射(きじゅうそうしゃ)…戦闘機から機関銃で地上のものをねらい撃つこと

(※2) 現在の清原にあった宇都宮陸軍飛行場と江曾島にあった中島飛行機製作所に付属する宇都宮南飛行場

(※3) 焼夷弾(しょういだん)…建物などを焼き払うために、燃やす薬剤を入れた爆弾

(※4) 探査機…目標物を見つけるために偵察する飛行機



戦後発展するまち 宇都宮

宇都宮市は空襲で市街地の大半を失いましたが、戦後いち早く戦災復興土地区画整理を進め、**全国一早い復興**をとげました。



▲二荒山神社からの風景 1945(昭和20)年

戦後の復興過程で都市機能を整備した宇都宮市は、軍都から新しい姿へ変わっていきました。

1960(昭和35)年になると、宇都宮工業団地(平出工業団地)を造成し、工業都市へと発展しました。

その後、東北自動車道やJR東北新幹線などの交通網が整備され、物流の拠点として現在も発展し続けています。



▲二荒山神社からの風景 1960(昭和35)年



▲二荒山神社からの風景 2020(令和2)年

復興のシンボル大いちょう



▲空襲後の大いちょう



▲現在の大いちょう

空襲で旭町の大いちょうは黒こげになり、枯れてしまったと思われましたが、翌年には葉を茂らせました。

空襲にも負けなかった大いちょうは宇都宮の復興のシンボルとなり、今でも市民に親しまれています。

1996(平成8)年には、市制100周年を迎え中核市となり、2007(平成19)年には50万都市となりました。

現在の宇都宮市は、子育てのしやすさや住みやすさにおいて高い評価をいただき、豊かな産業、スポーツ、歴史など、たくさんの魅力があります。

今後はさらに、宇都宮から世界に向けてSDGs(持続可能な開発目標)を推進するなど、未来につながるまちを目指しています。



▲FIBA 3×3
ワールドツアー



▲ジャパンカップ
サイクルロードレース



▲芳賀・宇都宮LRT車両
「ライトライン」

小学6年生で体験した宇都宮空襲

体験者のはなし

昭和20年の7月12日の夏です。私は中央小学校の6年生で、一番町というところに住んでいました。

夜中に空襲警報が「ウーッ、ウーッ」と発令されました。敵が来るという意味です。母から、「起きなさい! 空襲だよ! 」と言われ外に出たら、外が真っ赤…。焼夷弾が落ちて、暗闇の中にバアッッと火花が散って、家が焼けて倒れていました。

また、私の家族が東峰町に疎開をしていたので、その場所を目指して逃げたのですが、その辺りも爆弾が落ちてきて、たどり着くまでがとても大変でした。

宇都宮市は平成8年4月1日に「平和都市宣言」を行い、戦争の悲惨さを二度とくり返してはいけないと誓いました。今でも、世界の各地で戦争のニュースが流れて不安になる日もあります。皆さんは、宇都宮に空襲があったことを忘れずに、平和の尊さを大切にしてください。



すずきのぶじ
鈴木 宣次 さん
12歳の時に
宇都宮空襲を体験

平和のつどい実行委員会では、宇都宮空襲などの体験を市内の小学校で語り伝える「語り継ぎ講演会」を実施しています。戦争体験者のはなしは宇都宮市ホームページにおいて公開しています。

宇都宮 語り継ぎ講演会 検索



▲詳しくはこちらへ

未来に つづく平和都市 宇都宮

宇都宮市は、市制100周年である1996(平成8)年4月1日に「平和都市宣言」を制定し、悲惨な戦争をくり返すことなく、平和な世の中を守るよう努力することを誓いました。



宇都宮市平和都市宣言

私たちのまち、宇都宮市は、恵まれた環境の中で、世界に向けて限りなく発展を続けています。
今日の繁栄は、先人のたゆまぬ努力によって築かれたものであることを忘れてはなりません。

今に生きる私たちは、互いに協力し、かけがえのない生命と地球を守り、平和の輪を広げ、この安らぎのある地域社会を次の世代に伝えていく責任があります。

私たちは、日本国憲法^{いのち}の精神にのっとり、核兵器の廃絶をめざすとともに、戦争や人権侵害などの平和を脅かす様々な課題の解決に取り組みます。

私たちの願いである世界の恒久平和の実現に向けて努力することを誓い、ここに「平和都市」を宣言します。

平成8年4月1日 宇都宮市

平和なまち 宇都宮を守るために 私たちができること

宇都宮市平和都市宣言では、戦争や人権侵害など、平和を脅かす様々な課題の解決に取り組むこととしています。

今、私たちは新型コロナウイルスによる世界的な危機を乗り越えようとしています。

私たちは、このようなときこそ、相手の立場を理解した思いやりのある行動をとり、「平和なまち 宇都宮」を未来へつなげていきましょう!

平和を祈りましょう



宇都宮市 平和への取組



宇都宮市では、皆さんと一緒に平和を守ることの大切さを考え、平和の輪を広げていくため、「平和の日」「平和月間」に合わせて「宇都宮市平和のつどい」を1996(平成8)年から、平和のつどい実行委員会が中心となり、開催しています。

平和のつどいでは、広島平和記念式典に派遣する中学生の壮行や、平和について改めて考える機会になるような講演会や映画会などを行っており、過去には、2016(平成28)年に、作家の落合恵子さんによる講演会や、2018(平成30)年に、映画「この世界の片隅に」の上映などを実施しました。

ふくべ・きぶな
灯籠流し



毎年、宇都宮空襲のあった7月12日は、市民団体が田川に灯籠を流して、平和への祈りをささげています。



灯籠流しの様子(ピースうつのみや提供)

令和3年7月発行 企画作成 宇都宮市平和のつどい実行委員会

お問合せ 宇都宮市平和のつどい実行委員会事務局(宇都宮市男女共同参画課)

TEL 028-632-2346 FAX 028-632-2347